



- menu
- [NEWS](#)
- [HISTORY](#)
- [VISION](#)
- [OUR WORKS](#)
- [RECRUIT](#)
- [CONTACT](#)



ABOUT US
会社概要

有限会社 白倉ニット

事業内容	ニット生地およびニット製品の企画・製造・開発
設立	1985年
資本金	1000万円
代表者	代表取締役社長 白倉宏
所在地	〒940-0133 新潟県長岡市巻淵4-5-6 TEL: 0258-52-1165
売上高	2億9000万円(2006年12月実績)
決算期	毎年12月31日



本社工場／新潟県長岡市



沿革 HISTORY

100年以上の歴史ある繊維産地「栃尾」にて、1985年に法人化した白倉ニットは、設立当初、繊維業界の中で「編み工程のエキスパート」としてスタートしました。

流通の流動化、設備機械のコンピューター化という流れの中で、1996年 第一製品部発足、2003年 第二製品部発足と企画開発色を強めてきています。



本社工場 / 生産ライン

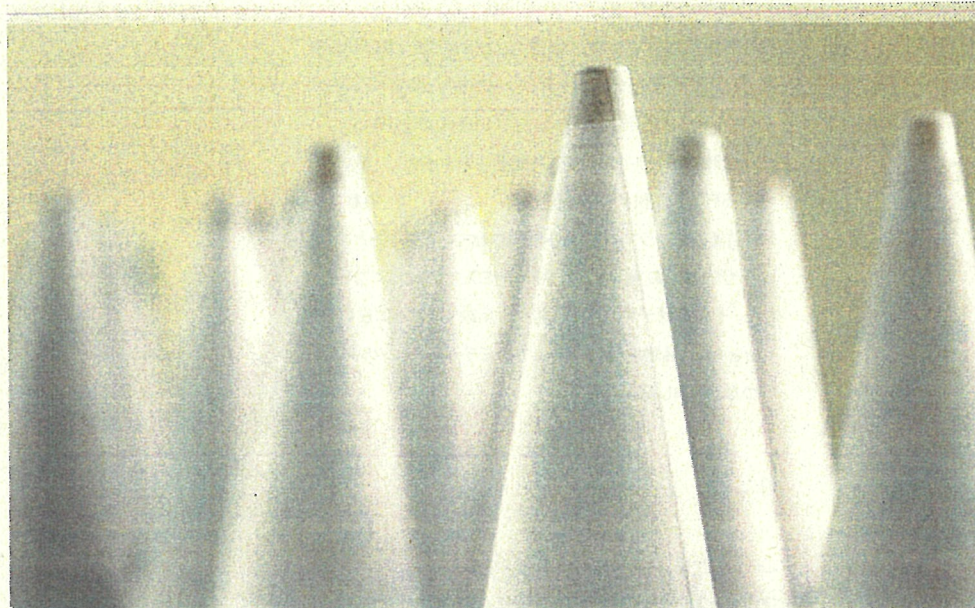
設立当初の8人から、お取引先様の協力で、2006年現在24人となり、近年は毎年、人材の採用を行っています。

歴史ある確かな技術で企画を支えるチームと、新しい発想で新しい価値を生むチームが、一体となって、生産と企画を分けない組織を目指しています。



本社工場 / 縫製室

白倉ニットはこれからも、「ニットに関わるすべてのことを、一人の人間が責任を持って担当すること」という姿勢の元、「異業種、異分野へのニットの提案」を進めてまいります。



VISION
ビジョン



代表取締役社長 白倉 宏

白倉ニットの生い立ち

古くから織物の産地として繊維工場(機織屋)が集中していた新潟・長岡で繊維産業に従事し、独立後、有限会社白倉ニットを設立しました。オイルショック後には、機織屋が300軒から30軒くらいに減少する中、ニット専門の工場として様々な工夫を凝らし、オリジナリティーを確立することで現在まで継続することができました。



企画・総合 白倉重樹

完成形がすぐに確認できる ニッターの仕事の醍醐味

ニッターと称される私たちテキスタイルデザイナーの仕事は、ファッションデザイナーが描いた服飾のデザイン原画を元に製糸工場が製造した糸を原料にして編み地(生地)をオリジナルで製造することです。この編み地の柄や伸縮具合、肌触り、質感をデザインするのが私たちの役割です。

完成形を即座に制作し確認できることが面白いですし、繊維工場の強みだと思っています。

ファッション/アパレルデザイナー
(デザイン原画を描く)



テキスタイルデザイナー/ニッター
(編み地のデザインする/織造工場)



製糸工場
(原糸を製造する)

ネット通販から
ユーザーの声をダイレクトに聞く

私たち繊維の工場は製造現場のことはよく知っているのですが、販売の現場の声はダイレクトに伝わって来にくいため商品の売れ行きなどが分かりにくい部分がありました。そんな時コピーライターの糸井重里さんと出会い、彼の主催する『ほぼ日刊イトイ新聞』(www.1101.com)で、白倉ニットが製造したハラマキをネット販売させていただいたところ、ユーザーからの声がダイレクトに聞こえてくるようになりました。その声はテキスタイル開発に反映することに役に立つとともに、繊維を製造する上でのモチベーションの向上につながりました。

デザインの重要性

このハラマキプロジェクトでは、多くの気鋭のデザイナーやアーティストがハラマキの絵柄デザインに参加していただいた結果、毎年販売とともに売り切れてしまうほどの大きな反響を得ることができました。この経験からデザイン性の高さやブランドイメージの構築が重要なことを実感することになりました。

ニット業界のイノベーション

中国など低賃金での労働力が日本の繊維産業を脅かしていると言われるそうですが、白倉ニットは独自の職人的な技術力によって、競合しない地位を確立してきました。また若い人材が不足していると言われる産業でもありますが、『モノをつくる』ことを重要視し、クリエイティビティーを高めやすい放任的な自由な環境をつくることを意識しているため、若いニッター希望の社員が増えています。

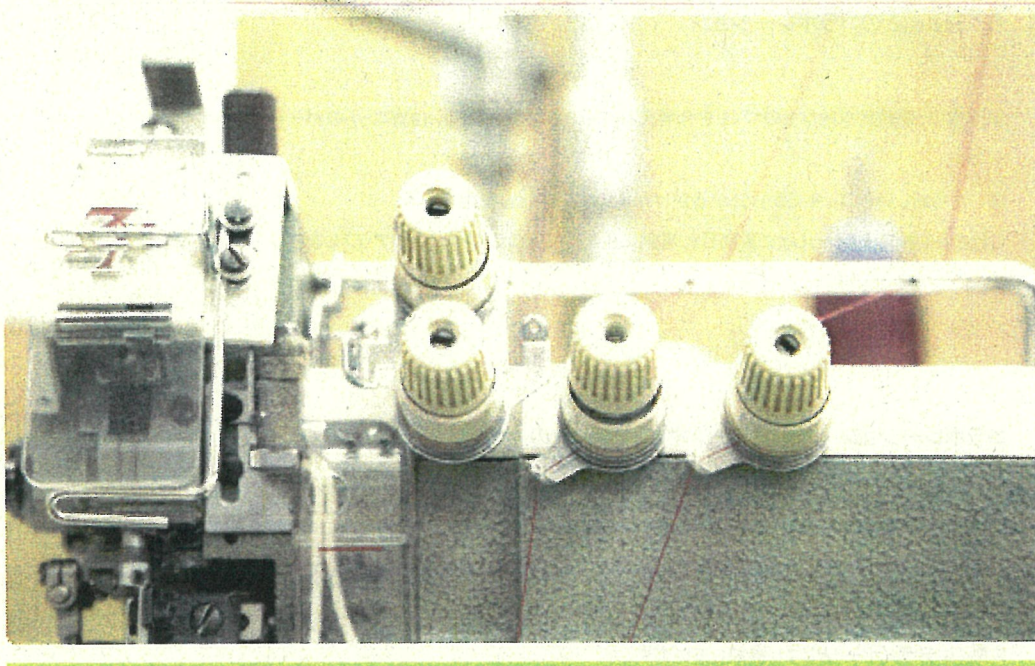
白倉ニットは、今後も時代の状況に即座に対応し、ニット業界のイノベーションを行い、オピニオンリーダーであり続けられるよう努力していきたいと考えています。

(代表取締役社長)

白倉 元



OUR WORKS
事例紹介



1

「ハラマキプロジェクト」
ほぼ日刊イトイ新聞とのコラボレーション

当社スタッフのアプローチで、全くのゼロから始まった「ほぼ日刊イトイ新聞」とのハラマキプロジェクトも、既に7年目(2007年4月現在)に突入。

毎回変わるデザインと、定番素材「のびのびタオリン」やお客様の要望によってつくられるオリジナルの新素材などで、毎年、たくさんの方々にご注文いただいております。

- ほぼ日刊イトイ新聞 (<http://www.1101.com>)
- ほぼ日ハラマキ (<http://www.1101.com/store/haramaki/>)



ほぼ日刊イトイ新聞
<http://www.1101.com>

2

「F-Style」とのコラボレーション

新潟県で「伝統的なものづくりを今考える」F-styleのお二人は、白倉ニットのパートナーです。

古いから新しいもの。今だから分かるかけがえない文化と技術。

これからもお二人といっしょに真面目に真剣に生地からものづくりをバックアップします。

● F-Style (<http://www.fstyle-web.net>)

3

コラボレーション・シェア・スタジオ「co-lab」への参加

約100人が参加するシェアオフィス「co-lab」。白倉ニットもそのメンバーです。

プロダクトデザイナー・建築家・グラフィックデザイナーなど、全く違う分野のアーティスト達とのコラボレーションが行われる「混ぜる流れの場」に、私たちは繊維のエキスパート「テキスタイルデザイナー」として、参加しています。

● co-lab (<http://www.co-lab.jp>)

